

高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年8月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第31週(8月2日～)から第34週(～8月29日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における8月の上位6疾患の合計は23.16で、7月の4週間換算値35.70と比べて減少した。減少の原因は、季節外れの爆発的流行となっていたRSウイルス感染症が峠を越えて減少に転じたことである。同じ8月で比べると、2015年56.31、2016年38.34、2017年62.96、2018年40.57、2019年52.22と推移したが、新型コロナ後の2020年は13.83と激減し、2021年は増加したとはいえ、コロナ前と比べると少ない。新型コロナ対策の活動自粛と衛生管理により、依然として日常的感染症は抑制された状態である。

1位がRSウイルス感染症で10.17(7月1位4週換算値19.06)と減少した。2位は感染性胃腸炎で7.84(同2位10.86)と減少、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.50(同3位2.11)と減少した。4位はヘルパンギーナで1.23(同6位0.99)と増加、5位は突発性発疹で1.22(同4位1.57)と減少、6位は手足口病で1.20(同8位0.63)と増加した。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

世界の患者数は、図1左に示すように、9月7日には2億2千万人を超え、死亡者は457万人を超えた。患者数を国別で比較すると、1位米国(4,001万人、人口当たり感染率12.16%)、2位インド(3,302万人、感染率2.42%)、3位ブラジル(2,089万人、感染率9.90%)、4位英国(705万人、感染率10.83%)、5位ロシア(692万人、感染率4.75%)、6位フランス(692万人、感染率8.30%)、7位トルコ(641万人、感染率9.50%)、8位アルゼンチン(520万人、感染率11.63%)、9位イラン(515万人、感染率8.52%)、10位コロンビア(491万人、感染率9.77%)である。

日本の患者数を図1右に示す。12-1月に第3波で急増したが、2-3月と加速が緩んだ。しかし、4月以降は再び急峻な増加となり(第4波)、アルファ株(英国型変異株)が急速に拡大し主たる流行株に置き換わった。6月以降はデルタ株(インド型)が増加し、オリンピック開催と同期して患者数が急増し、デルタ株が流行の主体に置き換わった。9月7日時点の国内の感染者は1,580,517人、死亡者は16,387人となった。このわずか1か月間で日本の患者総数が1.5倍に増加した。

高齢者ほど死亡率が高いのがCOVID-19の特徴である。ワクチンは65歳以上の高齢者を優先して接種が進められた。図2に示すように、各年齢層の死亡率は概ね、80代以上14%、70代5%、60代1.5%であったが、ワクチン効果によって高齢感染者の死亡に歯止めがかかってきているようである。

図3Aに年齢層別患者比率を示す。9月1日時点で累積感染者が人口に占める割合を図3Bに示す(総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>)。感染者の割合は、20歳代が最大で2.826%(100人あたり2.82人が感染)、次いで30代の1.713%、40代1.245%、50代の1.091%と続く。80代以上は0.567%で、70代の0.431%よりも高く、患者高齢者施設でクラスター(感染者集団)発生が相次いでいることが、80代の感染率を押し上げていると推測される。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	計
1	RSウイルス感染症		3.63	2.46	2.00	2.08	10.17
2	感染性胃腸炎		2.36	1.48	1.93	2.07	7.84
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.48	0.30	0.33	0.39	1.50
4	ヘルパンギーナ		0.34	0.20	0.25	0.44	1.23
5	突発性発疹		0.34	0.23	0.32	0.33	1.22
6	手足口病		0.23	0.20	0.29	0.48	1.20

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の8月の上位6疾患の合計は58.42で7月の4週間換算値69.12よりも減少はしたが、全国よりも多かった。同じ8月で比較すると、2015年46.22、2016年22.76、2017年30.13、2018年34.24、2019年29.21と推移したが、新型コロナ後の2020年は13.28と激減していたが、2021年の8月は平年の数を超え、過去10年間では2013年の59.20（手足口病とヘルパンギーナが大流行した）に次いで2番目に多かった。減少の原因は、空前的流行となったRSウイルス感染症がピークアウトしたことが大きい。

1位はRSウイルス感染症で36.18（7月1位44.09）と減少に転じたが全国よりも多く、都道府県別では新潟県、徳島県に次いで3番目に多かった。2位は手足口病で11.43（同4位4.78）と増加し全国よりも多かった。3位は感染性胃腸炎で4.82（同2位9.80）と減少し、全国よりも少なかった。4位はヘルパンギーナで3.71（同3位7.42）と減少したが全国よりも多かった。5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.53（同5位1.58）と横ばいで全国と同等、6位は咽頭結膜熱で0.75（同7位0.77）と横ばいで全国よりも多かった。

<新型コロナウイルス感染症 COVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図4に示す。昨年12月に報告が急増し（511人/月）、1月184人、2月37人、3月33人と減少したが、その後に第4波を迎え、4月123人、5月428人、6月356人、7月263人、東京五輪開始とともに急増し8月に1382人となった。8月18日から日々最多を更新する状態になった。現時点で県下の最多報告は8月25日の111人である。図5に日ごとに公表された感染者数と感染経路不明者数を示す。感染経路不明者が依然として多く感染の蔓延を示唆している。

図6に高知県における年齢別患者数の推移を示す。7月以降に60歳代以上の感染者数は減少しているのは、6月までに65歳以上の高齢者へのワクチンが完了した効果であろう。一方で10代までの幼児感染者が増加している。8月以降で2つの乳幼児施設と1つの児童福祉施設でクラスターが報告されており、新たな課題となった。

高知県でもアルファ株が大多数を占めていたが、8月上旬には、さらに強い感染力をもつデルタ株に置き換わったようである。東京五輪の開催による国民気分の緩み、夏休みの帰省にデルタ株が加わって、8月の大きな流行につながったと考えられる。9月8日時点で感染者は3,859人、死亡は31人に上っている。

コロナとの綱引きは続き、県の対応ステージは、下記のような変遷である。

2020年 12月2日	「注意（黄）」から「警戒（オレンジ）」に引き上げ
12月9日	「特別警戒（赤）」に引き上げ
2021年 1月22日	「警戒（オレンジ）」に引き下げ
3月4日	「注意（黄）」に引き下げ
4月5日	「警戒（オレンジ）」に引き上げ
5月24日	「特別警戒（赤）」に引き上げ
7月21日	「警戒（オレンジ）」に引き下げ
8月16日	「特別警戒（赤）」に引き上げ
8月19日	「非常事態（紫）」に引き上げ
8月27日	「まん延防止等重点措置」が適応（～9月12日）

ワクチンの進み具合については、9月5日時点で（表3）、県人口の61.7%が1回目を接種し、51.1%が2回目を実施している。65歳以上の実に86.1%が2回接種を完了しているが、12-19歳は9.9%、20歳代は24.0%、30歳代は27.5%と若年層ほど低迷しており、流行の収束への道のりはまだ長そうである。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	計
1	RSウイルス感染症		12.43	10.00	8.00	5.75	36.18
2	手足口病		1.61	2.39	3.36	4.07	11.43
3	感染性胃腸炎		1.32	1.11	0.96	1.43	4.82
4	ヘルパンギーナ		1.11	0.46	0.93	1.21	3.71
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.50	0.46	0.14	0.43	1.53
6	咽頭結膜熱		0.14	0.11	0.36	0.14	0.75

図1,2021年9月7日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

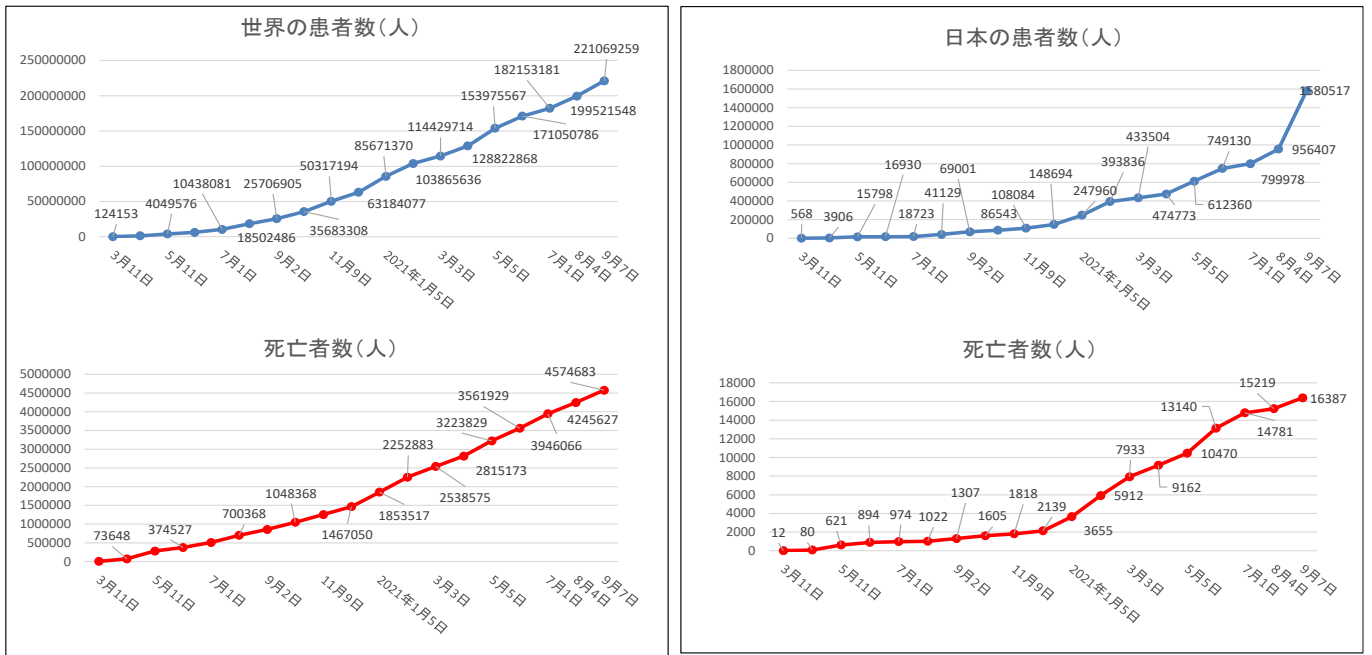


図2.高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移

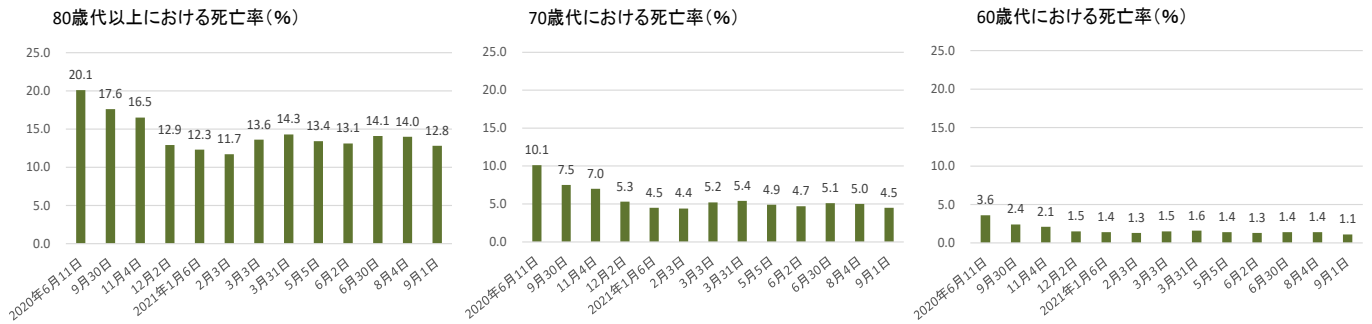


図3A, 経時的な年齢層別感染者数

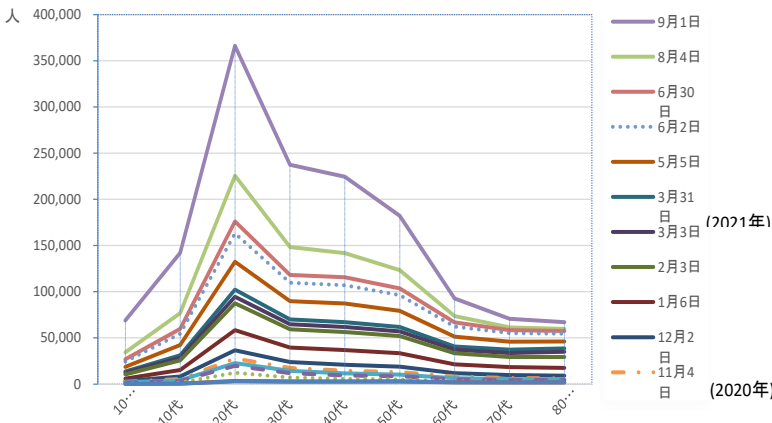


図3B, 年代階層別の感染者割合

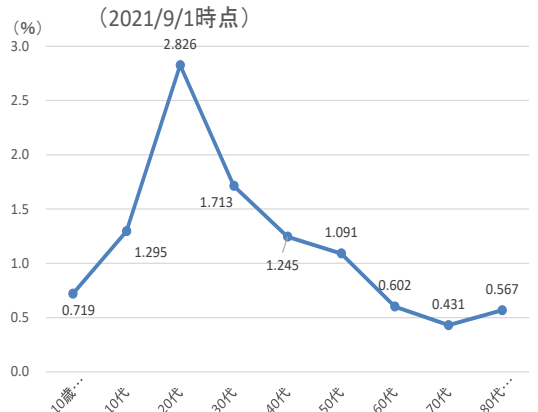
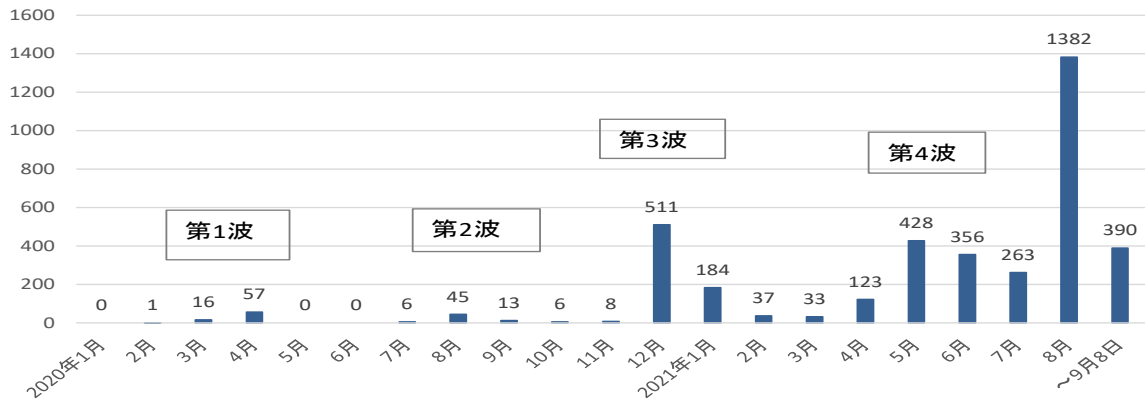


図4.高知県のCOVID-19月別患者数
～2021年9月8日



(人) 図5.高知県患者数と感染経路不明者数
(第3波以降)

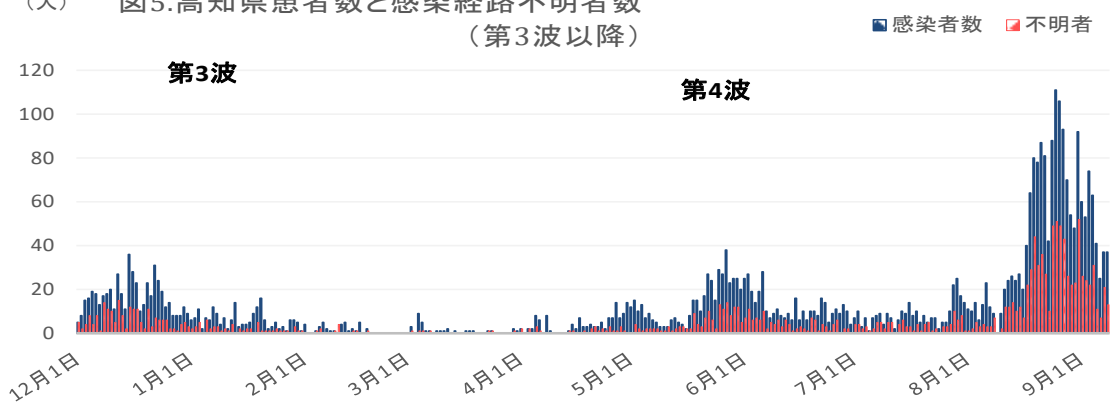


図6.高知県におけるCOVID-19患者の年齢別患者数の経時変化

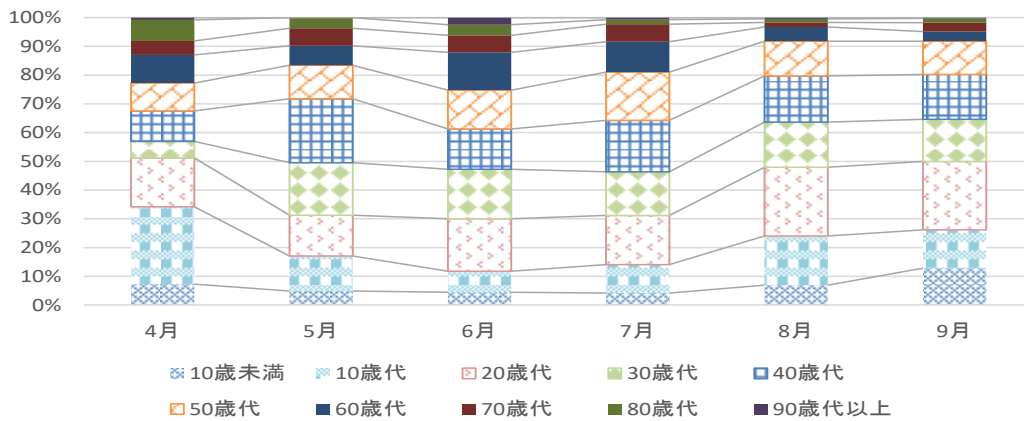


表3 高知県における年代別コロナワクチン接種率 (9月5日時点)

	1回目	2回目
全体	61.7%	51.1%
65歳以上	87.7%	86.1%
60～64歳	78.9%	69.9%
50代	71.6%	50.8%
40代	56.5%	32.8%
30代	40.0%	27.5%
20代	35.2%	24.0%
12～19歳	28.3%	9.9%

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

引き続き、衛環研のCOVID-19流行による業務増大のため、感染症発生動向調査としての他ウイルス検出は実施していない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名 (7月 0名)。2020-21年シーズンはまとまった報告はなかった。統計がある1998年以降の23年間で「流行」がないのは初めてであった。新型コロナウイルスに対する感染対策とワクチン接種の励行によるものと推測される。

2) 咽頭結膜熱

報告数 21名 (7月 27名)。10年間で2番目に少ない報告数である。安芸以外の県下全域から報告された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 43名 (7月 55名)。本年に入って、過去10年で同時期として最も少ない数で推移していたが、8月は2013年、2014年に次ぐ3番目の少なさだった。中央東以外の全域から報告があり、特に幡多が多かった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 135名 (7月 343名)。ノロウイルス流行で5月は増加したが、その後、減少を続けている。過去10年では2020年に次いで2番目に少なかった。県下全域から報告され、中央東、高知市、幡多から多く報告された。

5) 水痘

報告数 14名 (7月 13名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。中央西、須崎、高知市、中央東から報告された。

6) 手足口病

報告数 320名 (7月 167名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。10月をピークとした流行が年を越えてだらだらと続いていたが、7月になって増加し、平年並みの流行となった。県下全域から報告され、特に多かったのは、高知市、中央東である。起因ウイルスはまだ同定されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 1名 (7月 3名)。2020年9月以降は1けたの報告数である。高知市から1名報告された。

8) 突発性発疹

報告数 17名 (7月 51名)。想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 104名 (7月 260名)。本来初夏の感染症だが、2020年は遅れて流行し10月がピークで、その後だらだらと続いていた。2021年は5月に流行開始し、同時期としては過去10年で最多で、早い流行を迎えた。6月、7月となだらかに増加して平年並みの流行規模に落ち着き、8月は減少に転じた。県下全域から報告があり、特に多いのは高知市、中央西である。流行ウイルスはまだ特定されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 7名 (7月 3名)。少ない数で推移している。幡多、高知市から各3名、須崎市から1名が報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 1,013名 (7月 1,543名)。2020年は3月以降減少し、本来の流行期にも関わらず11月から3月まで異例のゼロが続いた。2021年は、5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名とようやく減少に転じたが、4か月連続で過去10年の統計で同月としては最多となり、季節外れの爆発的流行となった。特に7月は、年間報告数(過去10年間の平均値1,114名)を1か月の報告数が上回った。全域から報告されたが、特に多かったのは幡多であり、今回の流行は、県中部・東部から西部へと移動した。まる1年間RSウイルスの流行がなかったのも、ウイルス感受性児が蓄積されて、大きな流行になったと思われる。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名 (7月 2名)。高知市で1名報告された。

13) 細菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 1名 (7月 1名)。60歳代の患者が1名中央東から報告された。本年の累積4名目となった。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 1名 (7月 0名)。10代後半の患者が1名高知市から報告された。年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も2名と少数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 2名 (7月 0名)。高知市から70歳以上の患者が2名報告された。昨年11月以降は、同時期として過去10年間で最も少ない報告数が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 16名 (7月 21名)。平年並みである。高知市、中央東、幡多、安芸から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名 (7月 0名)。2020年1月以降はゼロが続いている。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患 (令和3年8月)

類型	病名	報告月								総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
2	結核	1	5	6	7	3	4	5	6	37
4	重症熱性血小板減少症候群		2			1	1			4
	日本紅斑熱			1	2	2	3	1		9
	レジオネラ症						3	1	1	5
5	ウイルス性肝炎	1								1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1		1	1		4
	急性脳炎							1		1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1		1			1		4
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		2	1	1	2			7
	水痘 (入院例に限る)							1		1
	梅毒	8	4	4	6	8	13	6	10	59
	破傷風	1								1
	百日咳						1			1
	総計	14	12	13	18	15	28	17	17	134

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2021年

8月

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ									
小児科	咽頭結膜熱		2	6	2	3	8	21	27	53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2		5	1	1	34	43	55	55
	感染性胃腸炎	5	43	54	6	1	26	135	343	131
	水痘		3	6	3	2		14	13	24
	手足口病	19	81	176	29	11	4	320	167	66
	伝染性紅斑			1				1	3	10
	突発性発疹	1	2	5	2	3	4	17	51	42
	ヘルパンギーナ	5	22	58	15	2	2	104	260	15
	流行性耳下腺炎			3		1	3	7	3	8
	RSウイルス感染症	15	158	279	31	33	497	1,013	1,543	
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1	2	2
STD	性器クラミジア感染症			2			1	3	3	6
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ			1				1	1	
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎		1					1	1	
	無菌性髄膜炎			1				1		
	マイコプラズマ肺炎			2				2		2
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	2	11			2	16	21	14
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									1
計		48	314	611	89	57	581	1,700	2,494	429
前月		55	466	1,291	217	89	376			
前年同月		17	65	229	35	30	53			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

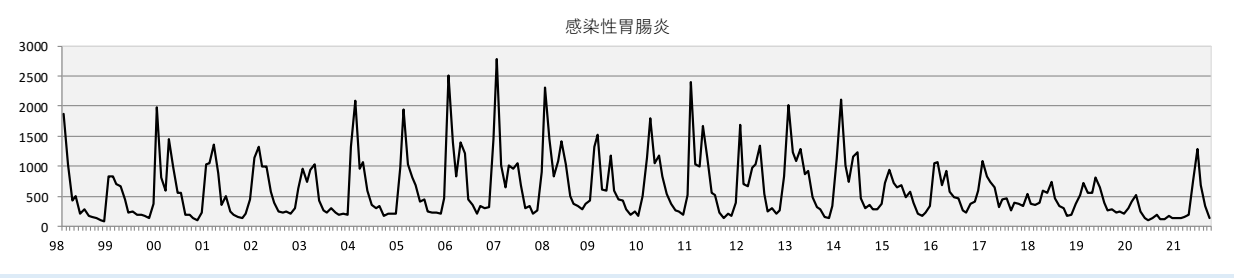
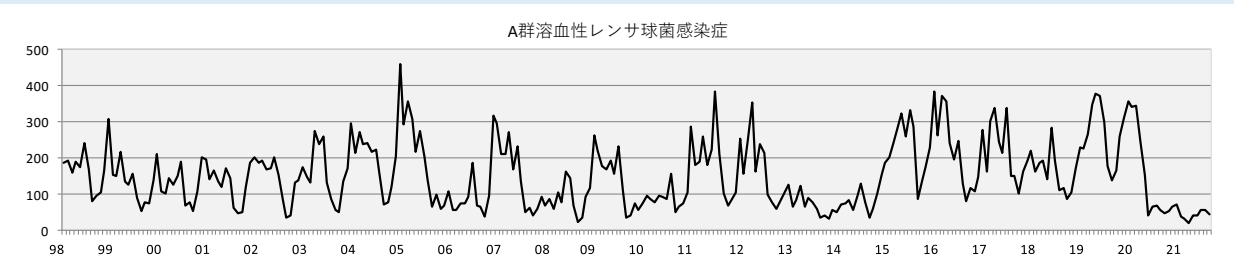
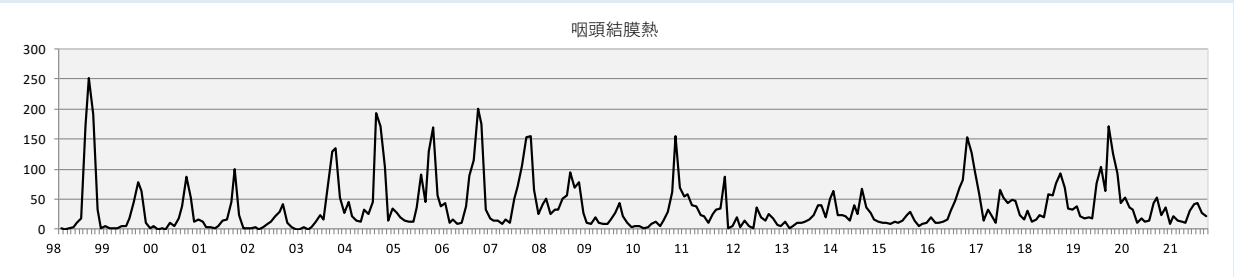
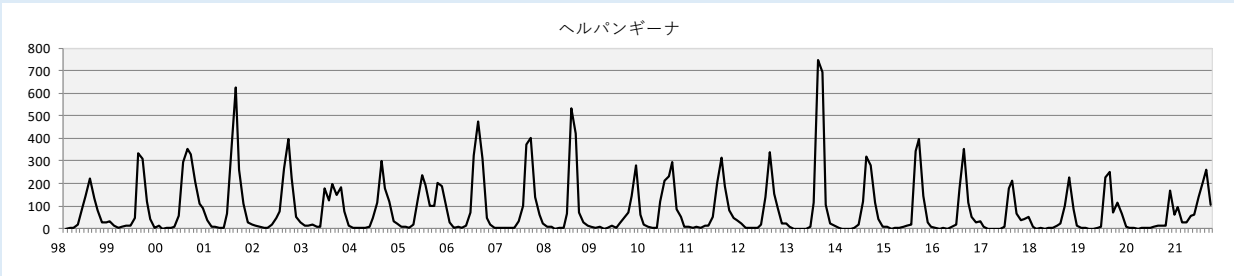
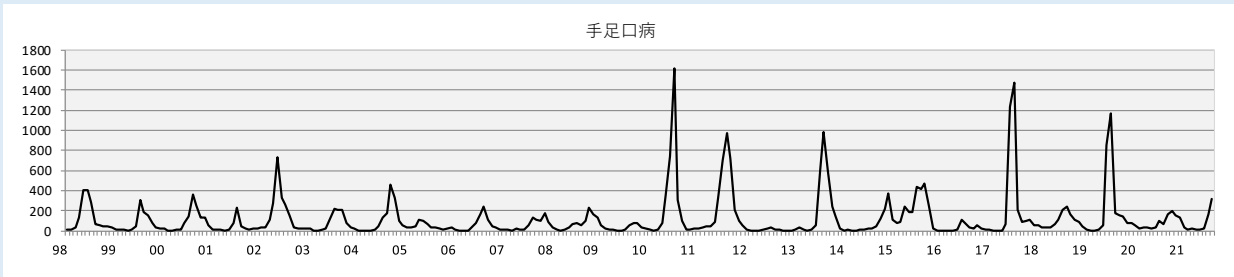
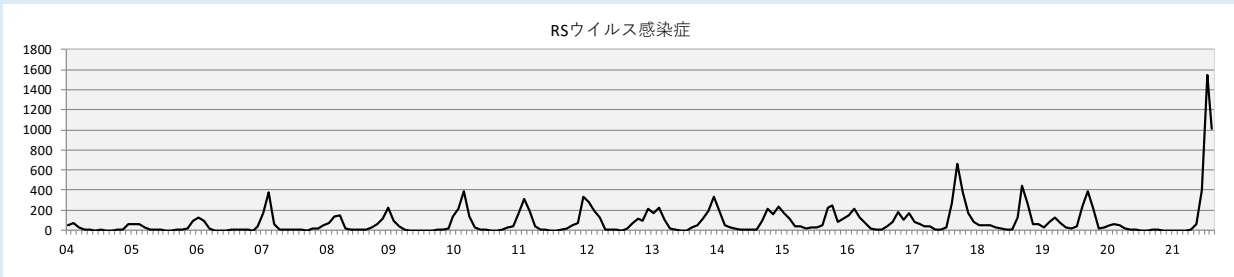
2021年

8月

定点当たりの人数

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ										
小児科	咽頭結膜熱			0.28	0.66	0.66	1.50	1.60	0.75	0.96	1.90
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.00		0.55	0.33	0.50	6.80	1.53	1.97	1.97
	感染性胃腸炎		2.50	6.15	6.00	2.01	0.50	5.20	4.82	12.25	4.69
	水痘			0.43	0.66	1.00	1.00		0.50	0.47	0.86
	手足口病		9.50	11.57	19.56	9.66	5.50	0.80	11.43	5.97	2.36
	伝染性紅斑				0.11				0.04	0.11	0.37
	突発性発疹		0.50	0.28	0.55	0.66	1.50	0.80	0.60	1.82	1.50
	ヘルパンギーナ		2.50	3.15	6.45	5.00	1.00	0.40	3.71	9.28	0.54
	流行性耳下腺炎				0.33		0.50	0.60	0.25	0.12	0.29
	RSウイルス感染症		7.50	22.56	31.00	10.33	16.50	99.40	36.18	55.11	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				1.00				0.33	0.66	0.66
STD	性器クラミジア感染症				1.00			0.50	0.50	0.50	1.00
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ				0.50				0.17	0.17	
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎			1.00					0.13	0.13	
	無菌性髄膜炎				0.20				0.13		
	マイコプラズマ肺炎				0.40				0.26		0.26
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)										0.13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		1.00	2.00	2.20			2.00	2.00	2.63	1.75
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症									0.13	
小児科定点分計			23.50	44.42	65.87	29.65	28.50	115.60	59.81	88.06	14.48
前月			27.50	65.86	140.76	72.33	44.50	75.20			
前年同月			8.00	9.01	23.22	11.65	15.00	10.20			

注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																				総計				
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	2021	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	37	1847	
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	37	1847	
3	コレラ	1					1						1												3	
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2					27	
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		207	
	腸チフス			1					1									1				1			4	
	バラチフス	2																							2	
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	243	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1			2			34	
	E型肝炎												1		1							2	1		5	
	オウム病			1		1														1					3	
	Q熱	1	1	2				1																	5	
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	4	
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3	93	
	デング熱													1			3	2	1				2		9	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	9	204	
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1												6	
	マラリア								2					1									1		4	
	レジオネラ症		2			1		1			9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	5	86	
	レプトスピラ症											1		4	2	1					1				9	
		計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	18	511
	5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3			47
ウイルス性肝炎		11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	1	2	1	61	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																		7	19	21	22	21	20	10	4	
急性弛緩性麻痺																					1	2			3	
急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1	22	
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3		35	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	4	32	
後天性免疫不全症候群		2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		81	
ジアルジア症			1	2	1							1			1	1					1				8	
侵襲性インフルエンザ菌感染症																		1	5	3	4	7	3	1	24	
侵襲性肺炎球菌感染症																	1	4	12	16	18	14	22	11	7	
水痘（入院例に限る）																			2	1	1	3		3	1	
髄膜炎菌性髄膜炎												1													1	
梅毒		2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	59	290	
播種性クリプトコックス症																				1	3	5			9	
破傷風				3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1								1							1		1	1			5	
百日咳																						173	172	35		
風しん											1	1			4	9	1				3			19		
麻疹												5												5		
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	79	1299	
新型	新型インフルエンザ																								34	
	計																								34	
動物	鳥インフルエンザ																								1	
	計																								1	
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	134	3935	